

## 平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 枚方市

実践研究校名 船橋小学校

【公開授業】公開日：平成26年2月26日

対象学年：第5学年

(教材・教科書名) Hi, friends! 1 (単元名) Lesson 7 “What’s this?” クイズ大会をしよう	(本時の指導の目標) ・ある物の情報を、日本語を使わずに、積極的にそれが何かと尋ねたり、答えようとする態度を養う。
--	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・児童が積極的に外国語を話そうとする態度を育てるために、教員がデモンストレーションを表現力豊かに行い、児童が外国語で表現することへの抵抗をなるべくなくした。
- ・ある物の情報を日本語を使わずに、児童が尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむよう、身近な動物、食べ物やスポーツの絵カードを使った。また、答えに結びつくよう段階的に質問できるようにした。

(授業を終えた教員の感想)

- ・普段から、教員も児童も楽しく授業を行っており、本時でも普段通りにできた。
- ・電子黒板を使ってチャンツや歌を、CDを使って単語や言語表現をリズムに合わせて覚えられるようにした。
- ・学習した英語を日常でも使えるようにするために、体で覚えられるようにした(身振りを付けながら表現)。
- ・相手の答えが正しい時に、“That’s right!”と言うだけでなく、他の表現を自分で考えてやるようにし、定型の表現にとどまらない工夫をした。
- ・“What’s this?”を活動の中で必然性を持たせて使う場面を設定することが難しい。そのため、少しでも児童の思考が入った表現となるように、授業を組み立てた。
- ・児童が考える場面が多く持てるクイズ大会になるようにJTEと学級担任で相談し、授業を展開した。

【研究協議会】

(テーマ) 中学校を視野に入れた小学校外国語活動について	(指導・助言者) 関西外国語大学外国語学部教授 並松 善秋 氏
---------------------------------	---------------------------------------

(研究協議会で出された意見)

- ・教員の前向きな姿勢が児童に伝わり、よい効果があった。

- 普段から細発音（b、v、o、aなど口唇の動き）の違いなどを言い直しさせていることが、児童の発音の良さにつながっている。
  - 活動後に代表児童による発表も見なかった。
  - 児童同士アイコンタクトをしっかりと取り、コミュニケーションを上手に図っていた。
  - 本時の内容を普段の授業で行うことは難しい（担当教員以外に学年から2名の教員が応援のために授業に加わったため）。
  - ゲーム形式で言語活動を行うことで、児童が知らない内に何回もさり気なく英語を話し、身につけていっていた。
  - 児童が活動中にワークシートにものを書く時に、ペーパーホルダーがあると便利だと思う。それを使うことで、児童が記入しやすくなる。
  - 学級経営がうまく成り立っているので、本時のような授業ができたと思う。日々の積み重ねが大切である。
- 

#### （まとめ）

1. 小学校での外国語活動のkey wordは、「楽しく」「本物の音声」で学ばせることである。まずは、何度も繰り返し聞かせる機会を設定する。
2. 音声指導に限らず、授業全体のリズムを大切に作る。
3. 「英語は楽しい」と児童に思わせる。教員の姿勢やキャラクターが児童の興味関心や自主性に影響する。児童に英語を嫌いにさせないことが最も重要である。
4. 小学校で楽しく英語に慣れ親しんでおくことで、中学校へ進学した時に、意欲的に英語活動がスタートできる。
5. JTEと上手に連携しながら、学級担任が授業の中で、児童をリードしていくことが大切である。